

講義名	専門基礎演習（人）			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

## 主題と概要

本科目の第1回～第10回の授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては、「聴く」「読む」「書く」「講べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。指定した教科書のワークシートを用い、その設問をこなしながら、実践的に行うものとします。

第11回～第15回の授業では、第1回～第10回までの授業で習得した基礎的な能力を活用できる形で、担当教員が専門とする分野・領域に即した授業を行います。

具体的には、この「専門基礎演習」では、日本の日常生活の中から「地域の特色や魅力」を考えます。

日本の住居、衣服、食事、年中行事、祭りなど、私達の生活には地域や家で受け継がれてきた伝統や習慣があります。そのような「日本の歴史や文化」を題材に、地域の特色や観光の魅力を探します。そこで、兵庫県を中心に、近畿地方の事例を取り上げ、地域の情報を収集・整理し、得られた特色を考察し、地域の魅力を旨で話し合いたいと思います。

## 到達目標

学生が、大学生としての学修（研究）に必要な基礎能力を身に付け、パソコンを使ったアカデミック・ライティングができるようになることを目指します。また、専門分野に関する学修の入口を理解できるようにすることを目指します。具体的な目標について、以下に示します。

・大学で学ぶ、意味を理解できるようにする。  
ノードをとる技術、文献を読む技術を習得し、大学での授業や研究に対応できるようにする。

・レポートを作成するための情報収集ができるようになる。  
パソコンを使って効率的にレポートを作成できるようにする。

・プレゼンテーションのための基礎的技術が習得し、活用できるようにする。  
ディスカッションやグループワークなどの協働作業を行い、自分の考えを相手に伝えることができるようになる。

## 提出課題

【第1回～第10回】  
・各回のワークシート  
・小課題 第9回の授業で、Word・Excelを使って作成する文書です。印刷して提出してもらいます。

【第11回～第15回】  
・各回のレポート  
・レポート このレポート課題の詳細は、授業内で説明します。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出課題については、登週の授業内で確認します。

## 評価の基準

出席状況、課題の提出状況および記述内容、授業への取り組みの姿勢をもとに判断します。

【第1回～第10回】  
・各回のワークシートの提出状況と内容：40％  
・小課題：10％ 第9回の授業で、Word・Excelを使って作成する文書。

【第11回～第15回】  
・各回のレポート：20％  
・レポート課題の作成と発表（質疑応答）：30％

\* 毎回の出席確認は、厳格に実施します。  
欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなります。  
\* 課題類の提出がない場合、それに対する評価点は0（ゼロ）点となり、成績に影響を及ぼします。

## 履修にあたっての注意・助言他

受講生には、好奇心を持っていただきたいと思います。演習で取り上げる課題についてだけでなく、そこから派生する事情について調べすることも重要です。特に後半に入ると、初めて聴く用語が多いと恐ろしいので、必ず予習・復習をしてください。

この科目は、少人数で開講します。仲間と協力しあって学ぶことになりますから、クラスの仲間のために出席するという心構えが大切です。出欠管理は厳しくなると承知してください。演習の授業のため、グループワークを実施させていただきます。

地域の魅力を探するためには、フィールドワークが大事です。授業の時間外とは別に、神戸市内の現地を1回（午前の部）、実施させていただきたいと思っています。実施する日にちや見学先は、授業の時間外に、旨で相談して決めます。見学時の交通費や入館料は、個人負担となりますので、ご了承ください。詳細は、前期の授業の時に連絡します。

## 教科書

・『知へのステップ（第5版）』、学習技術研究会編、くろしお出版、1980、9784874247891

## 参考図書

・なし。

## その他

<プリント資料>  
講義中に適宜、プリント資料を配布します。  
<参考文献>  
講義中に適宜、紹介します。

## 授業計画

授業の進め方や評価方法の詳細は、教室で行う「第1回の授業」において説明します。  
《重要》第1回～第10回までは、毎週、教科書を使用します。そのため、教科書『知へのステップ 第5版』は、各自、教科書販売期間に必ず購入し、第1回の授業に必ず持参してください。

【第1回】 学習技術とは テキスト第1章・ワークシートNo.1  
・「大学で学ぶ」とはどういうことか  
・タイムマネジメント

【第2回】 講義を聞いてノード・テイキング テキスト第2章・ワークシートNo.2  
・講義ノードをとる技術

【第3回】 概要・要点をよみとる テキスト第3章・ワークシートNo.3  
・文献を読むための基礎的な技術

【第4回】 要約から感想・意見を書く テキスト第4章・ワークシートNo.4(1)(2)(3)  
・文献の内容を要約する技術  
・自分の意見をまとめる技術

【第5回】 情報収集（1）（2） テキスト第5・6章・ワークシートNo.5  
・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術  
・インターネットで情報収集を行う技術

【第6回】 情報収集（3）、情報の整理 テキスト第7章・ワークシートNo.6  
・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excelを使用）

【第7回】 レポートを書く テキスト第8章・ワークシートNo.7(1)(2)  
・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（ニアカデミック・ライティングスキル）

【第8回】 わかりやすい表現 テキスト第9章・ワークシートNo.8(1)(2)  
・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）

【第9回】 パソコンによるライティング・スキル テキスト第10章・ワークシートNo.9  
・WordとExcelを活用したレポート作成の技術

【第10回】 プレゼンテーションの準備をする テキスト第11・12章・ワークシートNo.10(1)(2) No.11(1)(2)(3)  
・プレゼンテーションを行うための基礎的な技術

【第11回】 地域の魅力を探す 兵庫県  
【第12回】 地域の特色を探す 奈良県  
【第13回】 地域の特色を探す 京都府  
【第14回】 レポートの報告  
【第15回】 レポートの報告 ・まとめ（観光の魅力）

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習  
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマ（教科書の指示された範囲）を確認し、その内容をまとめておいてください（各回2時間）。

復習  
その日の授業内容に関する復習用課題を作成していただきます。また、各自、その日の授業内容を振り返り、授業の要点（キーワードやポイント）等を確認してください（各回2時間）。

## 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

情報収集力・情報分析力を育み、人間社会学部生に特に求められる「実証的な調査研究の方法」に習熟する。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

各回の授業の最初は、教科書等を用いた講義の形式で進めます。その後、授業中は、できがきり、受講生の話し合いの時間を設けます。各回の後半は、その日の授業のテーマについて、レポートの作成を個別またはグループで行います。

## 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、日本の歴史や地域の特性を紹介しながら授業を行います。

## 備考

《受講生へのメッセージ》  
授業の進め方や評価方法の詳細などは、前期の第1回の授業で説明します。体調に気を付けて、教室で行う授業に出席してください。

専門基礎演習の目的として、各自で資料の読解や整理の方法を学ぶとともに、クラスの仲間とのグループワーク、個別の発表や仲間との質疑応答などを通してコミュニケーション能力を養うことができれば、大変有り難く思います。  
この専門基礎演習は、観光学科の2年生をクラス分けし、「少人数」で実施します。教室では座席の間隔をあげ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努めます。教室でお会いできることを楽しみにしています。